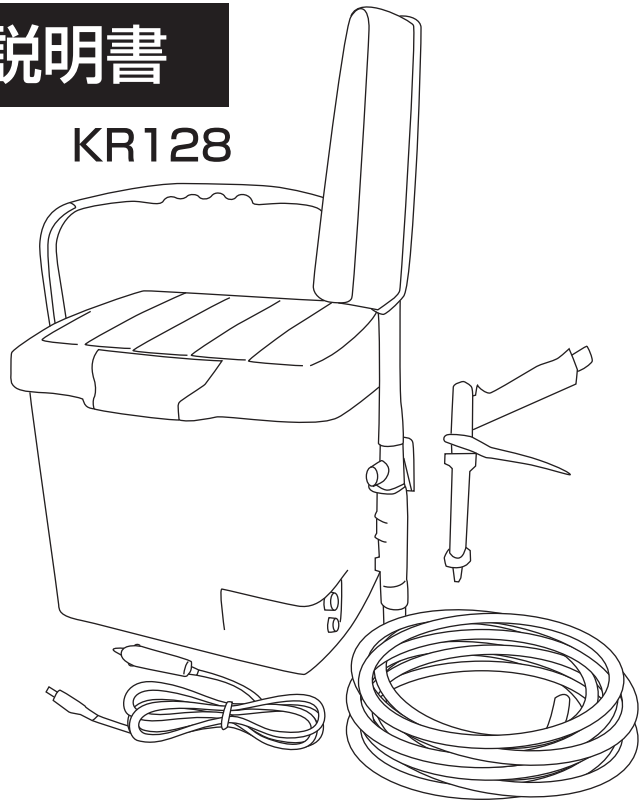
家庭用

# Bucket Washer

# 取扱説明書

KR128



この度は、本製品をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書を最後までお読みになり、ご理解されたうえで正しくお使いください。取扱説明書は、大切に保管してください。

本製品は日本国内においてのみ使用可能です。This product can be used only in Japan

MADE IN CHINA

## 使用上の注意

『禁止』を示しています。（してはいけないこと）

『強制』を示しています。（必ずすること）

**⚠警告** 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

**⚠注意** 障害や物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。

### ⚠警告

| | |
|---|---|
| 必ず守る | **規定電力 (DC12V) 内で使用する。**<br>表示電力を超える電圧で使用すると。過負荷による発熱、火災の原因となります。 |
| プラグを抜く | **使用しない時は、ソケットから電源コードを抜く。**<br>感電・破損などの原因となります。<br>また、使用後は電源スイッチをオフにしてください。 |
| 注 意 | **水タンクに水道水以外の液体を入れない。**<br>思わぬ事故や故障の原因となります。不純物も取り除いて使用してください。 |
| 必ず守る | **噴射方向に人や動物や壊れやすいものがないことを確認する。**<br>思わぬ事故の原因となります。 |
| 必ず守る | **お子様やペットを近付けない。**<br>思わぬ事故の原因となります。 |
| 必ず守る | **お子様に使用させない。**<br>使用後はお子様の手の届かない場所に保管してください。 |
| 注 意 | **ホース・本体・ノズルの接続部はしっかりと締める。**<br>確実に締まっていない場合は、作業中に脱落し、高圧水が勢い良く吹き出し、けがの原因となります。 |
| 必ず守る | **延長コード（別売り）を使用する時は、電圧･電力を確認する。**<br>本体の破損の原因となります。 |

## ⚠警告

| | |
|---|---|
| 分解禁止 | **修理業者以外分解・修理を行なわない。**<br>感電・破損などの原因となります。 |
| 濡らさない | **電源コードを濡らさない。**<br>感電・破損などの原因となります。 |

## ⚠注意

| | |
|---|---|
| 注 意 | **洗剤は中性洗剤のみを使用する。**<br>上記以外を使用すると、本体の故障の原因となります。 |
| 注 意 | **車のタイヤを洗浄する際は、ノズル先端から最低 20cm 離して使用する。**<br>接近しすぎると、タイヤの破損の原因となります。 |
| 注 意 | **対象物に損傷が生じる恐れがある物は、目立たない所で試してから使用する。**<br>バイクや車などにラベルやシールの貼ってある場合は十分にご注意ください。 |
| 注 意 | **使用する際は、汚れても良い服装にする。**<br>本体を使用中に汚れや水が衣服に飛び散る恐れがあります。 |
| 注 意 | **本製品専用の部品以外を使用しない。**<br>本体の破損の原因となります。 |

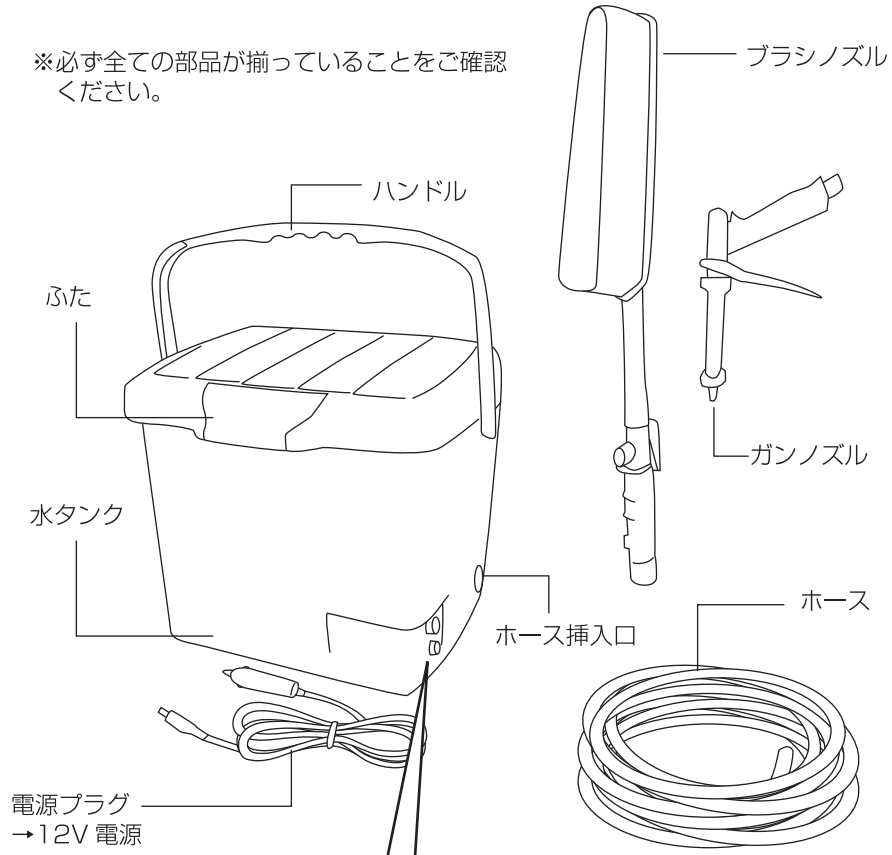
### 騒音について

ご使用に際し、周囲に迷惑をかけないように、各都道府県の騒音規定以下でご使用ください。



## 各部の名前 / 付属品

※必ず全ての部品が揃っていることをご確認ください。




**電源スイッチ**
○・・・電源オフ
Ⅰ・・・電源オン

**電源コード差し込み口**
※必ず電源をオフにしてから電源コードを差し込んでください。

**タンクジョイント**
ホース挿入口に差し込んでホースを繋ぐジョイント。

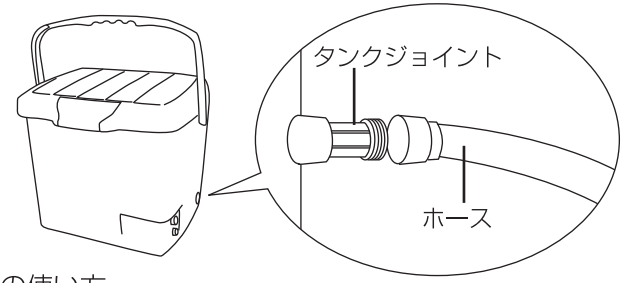
**ブラシノズルジョイント**
ブラシノズルの先とホースを繋ぐジョイント。

# 使用方法

※必ず電源スイッチがオフになっていることをご確認ください。

1. 水タンクに水を入れます。
2. 電源コードを水タンクの差し込み口に差し込みます。
3. 電源コードを車のシガーソケットもしくはその他の 12V 電源に差し込みます。
4. タンクジョイントをホース挿入口に回しながら差し込みます。
5. ホースとタンクジョイントを繋ぎます。
6. ガンノズルまたはブラシノズルを回しながら差し込みます。
7. 電源をオンにします。

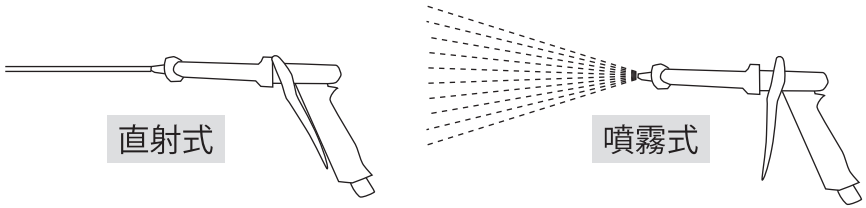
※車を洗浄する時は、窓を少しだけ開く、またはドアの下の隙間から電源コードを通して、車内に水が入らないようにしてください。




## ガンノズルの使い方

■強く握る･･･直射式 ( ガンコな汚れを落とすのに最適です。対象物から 20cm 以上離して使用してください。)

■軽く握る･･･噴霧式 ( 広範囲の汚れを落とすのに最適です。)

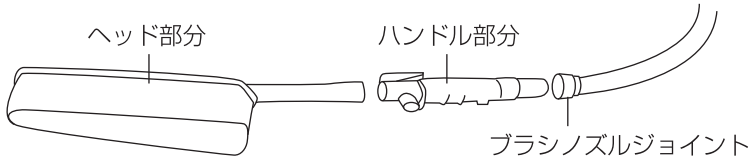



## ブラシノズルの使い方

■最初に、ブラシノズルジョイントとホースを繋ぎます。

■ヘッド部分とハンドル部分とブラシノズルジョイントを回しながら差し込みます。( 図 1)

【図 1】

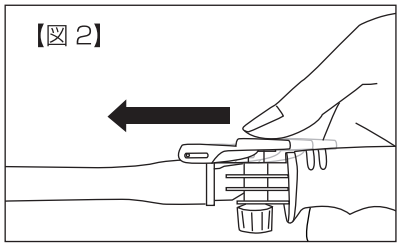




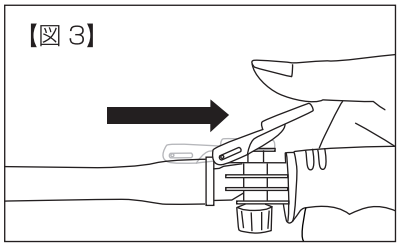

■ノズルロック･･･ロックを押さえながら押し出します。( 図 2)

■ノズルロック解除･･･ロックをスライドして手前に引きます。( 図 3)

【図 2】



【図 3】



# トラブルシューティング

| 状態 | 原因と思われること | 対処方法 |
|---|---|---|
| スイッチを入れても動かない。 | プラグが抜けているまたはしっかり入っていない。 | プラグをしっかりと差し込む。 |
| 水が勢いよく噴き出さない。 | ノズルに緩みがあり、水が漏れ出している。 | 各ノズルの緩みを締め直す。 |
| ジョイント部分から水漏れする。 | ジョイントに緩みがある。 | ジョイントを締め直す。 |

# 商品詳細

| | |
|---|---|
| 品番 | KR128 |
| 電源 | DC12V |
| 消費電力 | 45W |
| タンク容量 | 約 18L |
| サイズ | ホース / 約 600cm、タンク / 約 39×32×32cm、電源コード / 約 300cm |
| 重量 | 約 3kg |
| 水量 | 78-120L/h |
| 圧力 | 0.4-0.55MPA |
| 材質 | ポリプロピレン |
| 付属品 | 水タンク、ホース、電源コード、ブラシノズル、ガンノズル、ジョイント ×2、取扱説明書 |

# お手入れ方法

※電源スイッチをオフにしてください。
※電源コードがシガーソケットから抜けている事をご確認ください。
※シンナーやガソリン等は使用しないでください。

## 全体の点検

○定期的に各部品に緩みや破損等が無いことをご確認ください。

## 水タンクのお手入れ

1. 中性洗剤を溶かした水に布等を浸し、表面にこびり付いた汚れを拭き取ります。
2. 拭き取った後は乾いた布で拭き取るまたは風通しの良い場所で乾燥させてください。

※全体の水洗いは行わないでください。

## ノズルのお手入れ

○ガンノズル･･･ノズルの先にゴミが付着していると、水の出が悪くなることがあります。針金の先や針等で定期的に排水部分のゴミを取り除いてください。

○ブラシノズル･･･ノズルの先に中性洗剤を付け、よくもみ洗いをしてください。その後水でしっかりと流し、風通しのよい場所で乾燥させてください。

# 保管場所について

○お子様の手の届かない場所で保管してください。
○凍結する場所には保管しないでください。
○冬季では、出来れば暖房の入った 5℃以上の場所で保管してください。
○ホコリの少ない場所で保管してください。



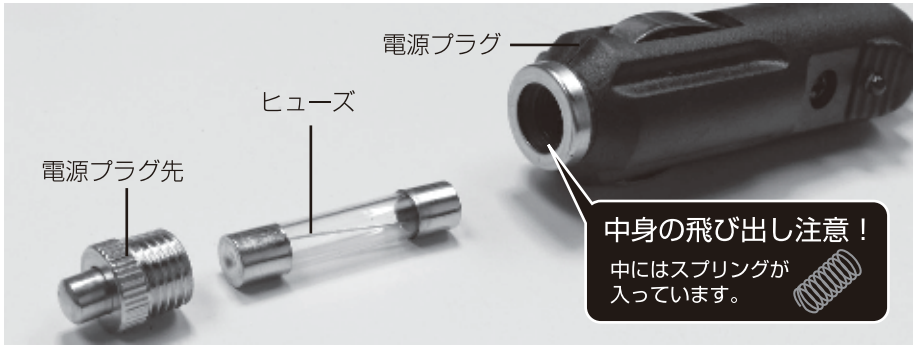
# 付属の交換用部品について

## ヒューズの交換

**ヒューズが切れたときは・・・**
**すぐにヒューズを交換するのではなく、まずは配線のどこかが、外れていないかまたは切れていないかを目視で確認しましょう。なにも見つからない場合は予備のヒューズを取り付けてください。**

以下ではヒューズが切れた（安全装置としての役割を果たした）場合の交換方法について説明します。

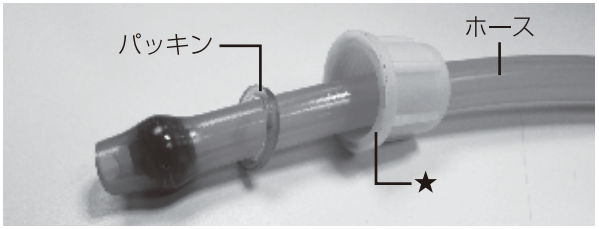
1. 電源プラグの先を反時計回りに回してとりはずします。このとき、中に入っているスプリングの反動で中身が飛び出すことがありますので、ゆっくりと取り外します。
2. 中のヒューズを取り出し、付属のヒューズと交換します。
3. 電源プラグの先を時計回りに回して締めます。




## パッキンの取付け

長期間の使用等により、ホース接続部が劣化して水漏れをする際に取付けを行なってください。

ホースの先の接続部（★）をずらし、ホースの先に取付けます。



## ガンノズルについて

### 接続部からの水漏れ

○部品の接続部から水が滴り落ちる場合、接続部がゆるんでいる可能性があります。しっかりと締め直してください。
※その他の部品についても、接続部のゆるみが原因の可能性がありますので、定期的にゆるみの点検をすることをおすすめします。

### 内部の排水について

○本体の水を排水した後、ガンノズル内には水が溜ったままになっています。本体を空にした状態で電源を入れ、ノズルから水が出なくなるまでトリガーを引いて完全に排水してください。
※中に水が溜っていると、故障の原因となることがあります。

## 持ち運ぶ際の注意点

○本体にはフタがついていますが、傾けると水がこぼれます。持ち運ぶ際は、本体を水平に保って運んでください。

○本体にホースを接続する前に、赤色の栓★を外してください。使用後は、本体内に残った水がタンクジョイントから流れ出るのを防ぐため、再び栓をすることをおすすめします。